

まちの話題

祝設立10周年 シルバーリハビリ体操指導士会

2月18日(土)、「笠間市シルバーリハビリ体操指導士会設立10周年記念式典」が、友部公民館で開催され、市民の方や近隣市町村の指導士が参加しました。

式典では、シルバーリハビリ体操の考案者である茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史さんによる記念講演や指導士による寸劇などが行われ、会場は大盛況となりました。

指導士会では、今後も普及活動に努め、介護予防や健康維持に貢献できるよう活動を続け、より多くの方が元気に暮らせるまちづくりを進めていきます。



記念式典であいさつする横倉会長



山口市長、上田支社長 (左から)

認知症高齢者の見守り事業(実証実験)への取組み

2月22日(水)、総合警備保障株式会社(ALSOK)茨城支社と「みまもりタグを活用した地域の見守り体制整備・活性化に関する包括協定」を締結しました。

みまもりタグを持った認知症高齢者等が、専用のアプリをインストールしたスマートフォンや感知器とすれ違うことで、自動的にALSOKのサーバに位置情報が送信され、行方不明者の早期発見が期待できます。

笠間市では現在感知器の設置を進めており、環境が整い次第、みまもりタグの配布を順次行っていきます。

「家族経営協定」調印式を開催

2月27日(月)に農業を営む高安行男さん、京子さんご夫妻(小原)の家族経営協定の調印式が笠間市役所で開催されました。

家族経営協定とは、家族の間であいまいになりがちな労働時間や報酬などの就業条件を取り決め、健全な経営を目指すものです。現在、本市では高安さんを含め、135戸の農家が協定を締結しています。

調印式では山口市長、小幡農業委員会会長、小林農業改良普及センター長が立会人となり、高安さん夫妻を激励しました。高安さん夫妻は、主に稲作と小菊を栽培されています。今後も2人力を合わせて栽培面積を広げ、経営規模の拡大を計画していくそうです。



小林さん、山口市長、高安さんご夫妻、小幡さん(左から)



卒業生・修了生 学校長らとともに

笠間陶芸大学 初の卒業式・修了式

3月3日(金)、昨年開校した笠間陶芸大学で、第1期生(研究科2名)の卒業式と大学の前身である茨城県窯業指導所から在籍されていた研修生(成形基礎コース8名)の修了式が行われ、新たな門出を迎えました。

式典では、金子学校長から「陶芸は、将来10人に1人残ればいいと言われている厳しい世界ですが、この学校で学んだ知識と経験を活かせば、全員が陶芸の道で成功できると考えています。自信を持って制作に打ち込んで大きく育ててほしいと願っています」と式辞が述べられました。

また、山口市長からは「プロとしての道は決して楽ではないと思うが、自分自身の力で道を切り開いていける魅力があると思います。皆さんの活躍が私たちの最大の願いです。大きく成長していただきたい」とエールが送られました。